

2018年度 地域プロジェクト成果報告書

科学を街に出そう！プロジェクト

○メンバー一覧

6338 石山雄太郎 6356 岸本花奈 6357 駒谷奈緒子 6358 松浦宏晃 6363 中村果愛
担当教員：松浦俊彦

○背景・目的・概要

背景・目的

科学館がない函館では、子どもや市民が気軽に科学に触れ・親しむ機会がほとんどない。そこで、本プロジェクトでは、子供や市民向けの科学イベントをつくり、科学と触れ合う機会をつくることで科学に親しみをもってもらうことを目的とした。

概要

5月にふるる函館で行われた『わくわくキャンプ 科学ものづくり（傘袋ロケット作り）』にスタッフとして参加、子供たちが傘袋ロケットを作る際の作業の手伝いや、進行の補助を行った。6月は『はこだて花と緑のフェスティバル 2018』という野外イベントに参加、ドラム缶潰し（大気圧の力でドラム缶が突然つぶれる実験）の手伝いを行った。また、8月に五稜郭タワーアトリウムで行われた『はこだて国際科学祭 2018』で科学屋台を出展することが決定していたため、科学屋台出展に向けて準備を行い、当日は果物電池をテーマに科学屋台を出展した。9月は『青年センターフェスティバル 2018』で科学楽しみ隊の方々とプラコップコースター作りのワークショップ屋台を出展、プラコップをオーブンレンジで加熱しコースターを作る作業の手伝いを行った。12月には青年センターで行われた『冬休み自由研究講座』に参加、子供たちや親御さんが光ファイバーを用いて星空フレームを作成する作業の手伝いを行った。また、毎月第2火曜日にサイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊の活動に参加した。

○年間スケジュール

- | | |
|----------|--|
| 5月27日（日） | ふるる函館 わくわくキャンプ 科学ものづくり「傘袋ロケット作り」
開催場所：函館市青少年研修センター ふるる函館
開催時間：13：00～16：00 参加者数：61名 |
| 6月9日（土） | はこだて花と緑のフェスティバル 2018「科学実験ショー」
開催場所：はこだて（大門）グリーンプラザ
開催時間：11：30～12：30 |
| 8月18日（土） | はこだて国際科学祭 2018 科学屋台出展
開催場所：五稜郭タワーアトリウム |

- 開催時間：10：00～15：30 参加者数：50名
9月2日（日） 青年センターフェスティバル 2018「プラコップコースター作り」
開催場所：函館市青年センター
開催時間：10：00～15：00 参加者数：50名（完売）
12月23日（日） 青年センター冬休み自由研究講座 2018「光ファイバーで光る星空フレームを作ろう」
開催場所：青年センター
開催時間：10：00～13：00 参加者数：親子16組（満員）

○プロセスと成果

前期・後期を通して、函館で開催されている様々な科学イベントにスタッフとして参加し、イベントの企画運営（企画力、イベントの進行、安全管理）について学んだ。また、科学楽しみ隊の活動に参加することで、イベントの内容を参加者に理解していただくための工夫などを学んだ。実際のイベントでは、参加者の子供たちや親御さんが真剣に手を動かしてイベントに参加する様子を見ることができた。

前期の後半では、主に『はこだて国際科学祭』で科学屋台を出展するための企画を行った。企画の際は、函館の人に身近なテーマは何か、興味をもっていただくためにはどのような工夫が必要か、メンバー全員で話し合い、活動内容を決定した。イベント当日は、果物電池をテーマに科学屋台を出展した。果物6種・飲み物4種を用意し、オルゴールに繋いで音が鳴ることを確認してもらい、身近なものからでも電気が作れることを実感してもらった。参加者は小学生以下の子供たちが多く、オルゴールの音が鳴ったときの驚いた反応や笑顔が印象的だった。また、「楽しかった」という声も多くいただいた。

○総括・反省・今後の課題

総括

実際に様々なイベントにスタッフとして参加することで、イベントの企画運営方法を学ぶことができた。前記を踏まえ、イベントの一環として自分たちで企画した科学屋台を出展することができた。また、実際にイベントに参加した方々の反応を見て、科学に触れ合う機会を多くつくる必要性を感じた。

反省点

はこだて国際科学祭の科学屋台では、「果物電池の原理についての説明がなかった」との指摘を受けた。イベントを楽しんでもらうための工夫と、内容を理解してもらうことをうまく繋げることができず、原理についての説明ができなかったことが反省点として挙げられる。

今後の課題

これまでの活動で学んだことや反省点をまとめ、改善する方法を考える。次年度以降は、今年度学んだことを引き継ぎ、学生主体でイベントを企画運営し、開催してもらいたい。

○地域からの評価

サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊の方々から評価をいただいた。「積極的にイベントに参加していた」、「地域の方々との関わり方は適切であった」かについてアンケートを行った結果、とてもあてはまるが 60%、あてはまるが 40%という結果になった。その他、「言われたことをこなすだけではなく、自分で判断して動いていた。」「積極的にコミュニケーションをとって頑張っていた」などの評価をいただいた。また、次年度以降にやってほしいこととして、「もっと多くのイベントに参加してほしい」、「学生主体でイベントを開催してほしい」との声をいただいた。

○謝辞

様々なイベントに参加する機会を与えてくださった科学楽しみ隊の皆様をはじめとし、本プロジェクトにご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ふるる函館わくわくキャンプの様子



花と緑のフェスティバルにて
潰れたドラム缶と記念撮影



はこだて国際科学祭の様子



冬休み自由研究講座の様子